

























つしん景況レポート

作州地域中小企業景気動向調査 2018. 4~6月期 第26回

【特別調査—中小企業経営に関する各種支援制度の利用について】

津山信用金庫は、作州地域内240企業の経営者のご協力のもと、ここに第26回つしん景況レポートを発刊いたします。作州地域の景況感を経営者の皆様方と共有し、皆様方のよきパートナーとして地域の繁栄に努めてまいります。

■概況:4月~6月の業況は曇、7月~9月の見通しは晴れ時々曇■

【地域別天気図】	2017年 4月~6月	2017年 7月~9月	2017年 10月~12月	2018年 1月~3月	今期実績 4月~6月	来期見通し 7月~9月
作州地域全体						
津山鏡野地域						
真庭地域						
美作勝央地域						

●作州地域全体では、今期(2018年4月~6月)の業況判断DIは、前期比8.6ポイント下落し、プラス4.1となり、7期連続のプラス水準となった。来期(2018年7月~9月)は、プラス20.4と業況感が上昇する見通しとなっている。

●地域別には、津山鏡野地域は前期比16.6ポイント下落し、マイナス2.1、真庭地域は前期比17.2ポイント上昇し、プラス19.2、美作勝央地域は前期比11.6ポイント下落し、プラス7.0となった。来期は、津山鏡野地域プラス20.6、真庭地域プラス21.1、美作勝央地域プラス18.6とすべての地域で上昇する見通しとなっている。

業況判断DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い
作州地域全体	12.7	30.4	43.3	26.3	4.1	36.7	47.1	16.3	20.4
津山鏡野地域	14.5	27.6	42.8	29.7	▲2.1	37.2	46.2	16.6	20.6
真庭地域	2.0	36.5	46.2	17.3	19.2	34.6	51.9	13.5	21.1
美作勝央地域	18.6	32.6	41.9	25.6	7.0	37.2	44.2	18.6	18.6

※DIとは、Diffusion Index の略で、「良い(または増加、上昇、楽)」と回答があった企業数の割合(%)から「悪い(または減少、下降、苦しい)」と回答があった企業数の割合(%)を差し引いた値

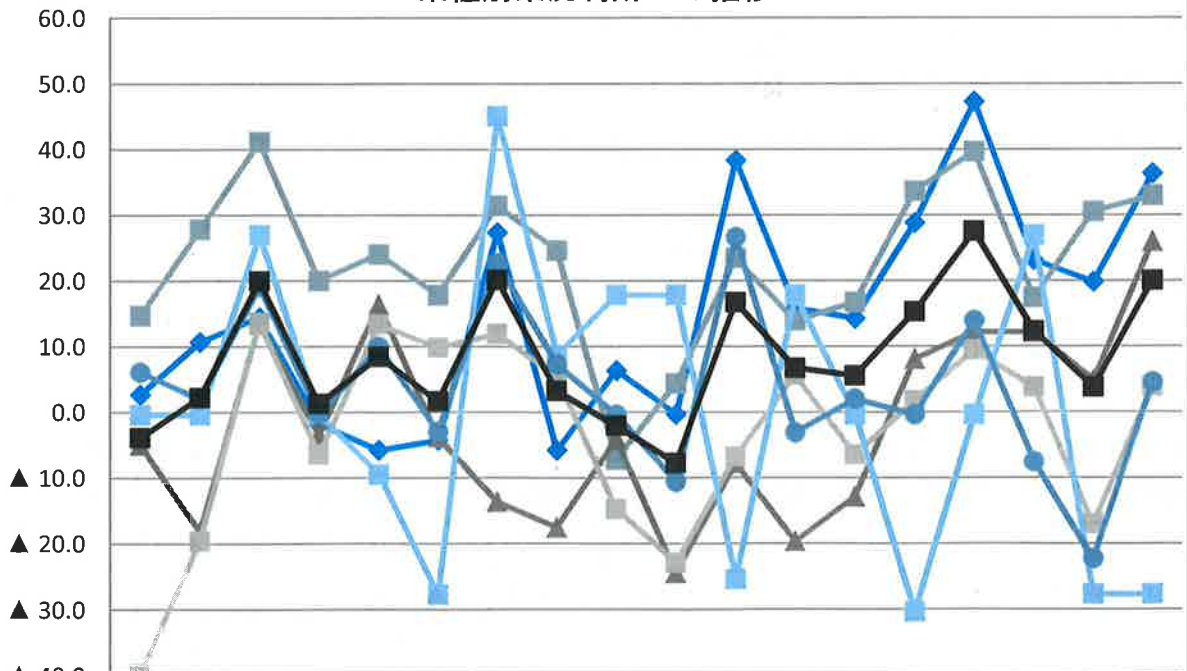
■天気図のご説明■

DI	30以上	10以上~ 30未満	0以上~ 10未満	▲10以上 ~ 0未満	▲30以上 ~ ▲10未満	▲30未満
天気図						

■全業種総合■

【業種別 天気図】	2017年 4月～6月	2017年 7月～9月	2017年 10月～12月	2018年 1月～3月	今期実績 4月～6月	来期見通し 7月～9月
製造業						
建設業						
卸売業						
小売業						
不動産業						
サービス業						
全業種						

業種別業況判断DIの推移



	14/4月 ～6月	7月～ 9月	10月～ 12月	15/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	16/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	17/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	18/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月 見通し
● 製造業	3.1	11.1	14.8	▲1.4	▲5.4	▲3.9	27.7	▲5.4	6.7	0.0	38.7	16.2	14.6	29.2	47.6	23.5	20.2	36.7
■ 建設業	15.1	28.2	41.5	20.4	24.4	18.2	31.8	25.0	▲6.8	4.7	23.8	14.3	17.1	34.0	40.0	17.8	30.9	33.3
▲ 卸売業	▲4.6	▲17.8	13.8	▲3.2	16.7	▲3.4	▲13.3	▲17.2	▲3.7	▲24.1	▲7.4	▲19.3	▲12.5	8.4	12.5	12.5	5.2	26.3
■ 小売業	▲39.4	▲19.2	14.0	▲6.1	13.7	10.2	12.3	5.8	▲14.3	▲22.5	▲6.4	6.0	▲6.1	2.1	9.8	4.1	▲16.6	4.2
● 不動産業	0.0	0.0	27.3	0.0	▲9.1	▲27.3	45.4	9.1	18.2	18.2	▲25.0	18.2	0.0	▲30.0	0.0	27.3	▲27.3	▲27.3
● サービス業	6.5	2.4	19.5	0.0	10.3	▲2.6	23.1	7.7	0.0	▲10.2	27.0	▲2.7	2.4	0.0	14.3	▲7.2	▲21.9	4.9
■ 全業種	▲3.5	2.6	20.3	1.6	8.8	2.0	20.5	3.6	▲1.7	▲7.4	17.1	7.1	5.9	15.6	27.9	12.7	4.1	20.4

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず
業況	12.7	30.4	43.3	26.3	4.1	36.7	47.1	16.3	20.4
売上	▲ 1.2	37.5	32.5	30.0	7.5	35.0	47.5	17.5	17.5
収益	▲ 2.3	31.3	39.6	29.2	2.1	27.9	56.7	15.4	12.5

- 業況判断D Iは、今期(2018年4月～6月)はプラス4.1となり、前期比8.6ポイント下落した。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス20.4となっている。
- 売上判断D Iは、今期はプラス7.5となり、前期比8.7ポイント上昇した。来期見通しはプラス17.5となっている。
- 収益判断D Iは、今期はプラス2.1となり、前期比4.4ポイント上昇した。来期見通しはプラス12.5となっている。

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI	楽・過剰	変らず・適正
資金繰り	1.6	9.2	82.1	8.8	0.4	8.8	86.7	4.6	4.2
雇用(人手過不足)	▲ 44.0	2.5	51.7	45.8	▲ 43.3	3.8	49.2	47.1	▲ 43.3
設備投資	▲ 13.7	4.4	78.2	17.5	▲ 13.1	4.4	78.6	17.0	▲ 12.6

- 資金繰り判断D Iは、今期(2018年4月～6月)はプラス0.4となり、前期比1.2ポイント下落した。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス4.2となっている。
- 人手過不足判断D Iは、今期はマイナス43.3となり、前期比0.7ポイント上昇した。来期見通しもマイナス43.3となっている。今期来期ともに過去最低のD Iを記録した前期と同水準となっている。
- 設備投資D Iは、今期はマイナス13.1となり、前期比0.6ポイント上昇した。来期見通しはマイナス12.6となっている。製造業がマイナス20.2、卸売業がマイナス21.1と全業種平均を下回っている。

■ 製造業 ■

製造業全般	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず
業況	23.5	40.5	39.2	20.3	20.2	49.4	38.0	12.7	36.7
売上	▲ 7.4	41.8	39.2	19.0	22.8	32.9	51.9	15.2	17.7
収益	▲ 16.1	39.2	44.3	16.5	22.7	25.3	59.5	15.2	10.1

- 製造業の業況判断D Iは、今期(2018年4月～6月)は前期比3.3ポイント下落し、プラス20.2となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス36.7となっている。
- 売上判断D Iは、今期はプラス22.8、来期見通しはプラス17.7となっている。
- 収益判断D Iは、今期はプラス22.7、来期見通しはプラス10.1となっている。
- 製造業の内、その他製造業(金属製品製造業、木材・木製品製造業、農林業を除いたもの)の業況判断D Iは、今期はプラス32.6、来期見通しはプラス34.8となっている。
- 関東地方で人件費が高騰しており、東京オリンピック関連工事に伴う仕事が、運送費を加味しても安価となる地方の製造業者へ回ってきているとの声が複数聞かれた。

製造業のうち: 金属製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず
業況	46.2	30.8	61.5	7.7	23.1	46.2	53.8	0.0	46.2
売上	7.7	7.7	69.2	23.1	▲ 15.4	30.8	69.2	0.0	30.8
収益	▲ 7.7	15.4	76.9	7.7	7.7	7.7	84.6	7.7	0.0

●金属製品製造業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比23.1ポイント下落し、プラス23.1となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス46.2となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス15.4、来期見通しはプラス30.8となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス7.7、来期見通しはゼロとなっている。

●食品関係、医療介護関係の製品受注が多く、生産能力一杯となっている。人材不足、外注先不足に加え、「海外販売を増加させたい。」「原材料価格が上昇している。」との声が複数あった。また、仕入価格の上昇や確保難に備えるため、在庫を増やさざるを得ないとの声があった。

製造業のうち： 木材・木製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	0.0	30.8	38.5	30.8	0.0	53.8	30.8	15.4	38.4
売上	▲ 28.5	53.8	30.8	15.4	38.4	30.8	53.8	15.4	15.4
収益	▲ 42.9	38.5	46.2	15.4	23.1	23.1	61.5	15.4	7.7

●木材・木製品製造業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期と変わらず、ゼロとなった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス38.4となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス38.4、来期見通しはプラス15.4となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス23.1、来期見通しはプラス7.7となっている。

●製材業者から住宅着工件数の低迷により売上が大幅に減少しているとの声が複数あった。

製造業のうち： 農林業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	18.2	20.0	50.0	30.0	▲ 10.0	50.0	30.0	20.0	30.0
売上	9.1	30.0	40.0	30.0	0.0	40.0	30.0	30.0	10.0
収益	▲ 27.3	30.0	40.0	30.0	0.0	30.0	40.0	30.0	0.0

●農林業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比28.2ポイントと大幅に下落し、マイナス10.0となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス30.0となっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス10.0となっている。

●収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しもゼロとなっている。

●農業者からは、飲食店に地元産品を提供し、新商品開発と一緒に取組んでいるとの声があった。

■建設業■

建設業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	17.8	45.2	40.5	14.3	30.9	47.6	38.1	14.3	33.3
売上	0.0	40.5	38.1	21.4	19.1	33.3	50.0	16.7	16.6
収益	11.1	28.6	47.6	23.8	4.8	23.8	64.3	11.9	11.9

●建設業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比13.1ポイント上昇し、プラス30.9となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス33.3となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス19.1、来期見通しはプラス16.6となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス4.8、来期見通しはプラス11.9となっている。

●住宅建設を除いた建設業の業況判断DIは、今期はプラス31.0、来期見通しはプラス48.3となっている。

●メガソーラー設置工事に加え、ホテル新築工事、公共施設工事など大型案件が多く、売上収益ともに安定しているとの声が複数あった。

建設業のうち： 住宅建設	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	12.5	30.8	69.2	0.0	30.8	23.1	53.8	23.1	0.0
売上	0.0	46.2	38.5	15.4	30.8	7.7	53.8	38.5	▲ 30.8
収益	12.5	23.1	53.8	23.1	0.0	15.4	61.5	23.1	▲ 7.7

- 住宅建設業者の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比18.3ポイント上昇し、プラス30.8となった。来期(2018年7月～9月)の見通しはゼロとなっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス30.8、来期見通しはマイナス30.8となっている。
- 収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはマイナス7.7となっている。
- 景況感が悪いと回答した企業はなかった。一方で、建築資材価格が上昇しているとの声が複数あった。今期の完成工事が多かった反動で売上判断DIの来期見通しがマイナスとなっている。

■卸売業■

卸売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	12.5	26.3	52.6	21.1	5.2	36.8	52.6	10.5	26.3
売上	0.0	52.6	36.8	10.5	42.1	26.3	57.9	15.8	10.5
収益	8.3	52.6	42.1	5.3	47.3	26.3	57.9	15.8	10.5

- 卸売業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比7.3ポイント下落し、プラス5.2となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス26.3となっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス42.1、来期見通しはプラス10.5となっている。
- 収益判断DIは、今期はプラス47.3、来期見通しはプラス10.5となっている。
- 市場相場上昇によりメリットを受ける会社の業況感が良くなっている。一方で、大手との競合で食料・飲料卸売業の業況感が悪くなっている。日本産ウイスキーの価格が上昇しているとの声が複数あった。

■小売業■

小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	4.1	18.8	45.8	35.4	▲ 16.6	29.2	45.8	25.0	4.2
売上	4.1	37.5	18.8	43.8	▲ 6.3	43.8	31.3	25.0	18.8
収益	4.1	25.0	29.2	45.8	▲ 20.8	33.3	47.9	18.8	14.5

- 小売業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比20.7ポイントと大幅に下落し、マイナス16.6となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス4.2となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス6.3、来期見通しはマイナス18.8となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス20.8、来期見通しはプラス14.5となっている。
- ドラッグストアやネット通販との競合による売上減少を懸念している。そこで、地域農産品を使い、地域色のある商品開発で差別化を図っているとの声があった。

小売業のうち： 自動車小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	0.0	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3
売上	14.3	42.9	7.1	50.0	▲ 7.1	35.7	50.0	14.3	21.4
収益	7.2	28.6	14.3	57.1	▲ 28.5	35.7	57.1	7.1	28.6

●自動車小売業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比14.3ポイント下落し、マイナス14.3となった。来期(2018年7月～9月)見通しもマイナス14.3となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス7.1、来期見通しはプラス21.4となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス28.5、来期見通しはプラス28.6となっている。

●売上判断DIが二極化しており、ディーラー(特定メーカーと特約店契約を締結している販売店)は苦戦しているものの、その他販売店からは新車販売が増加しているとの声が複数あった。

■不動産業■

不動産業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	27.3	9.1	54.5	36.4	▲ 27.3	0.0	72.7	27.3	▲ 27.3
売上	45.4	9.1	36.4	54.5	▲ 45.4	18.2	72.7	9.1	9.1
収益	36.4	18.2	36.4	45.5	▲ 27.3	9.1	90.9	0.0	9.1

●不動産業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比54.6ポイントと大幅に下落し、マイナス27.3となった。来期(2018年7月～9月)見通しもマイナス27.3となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス45.4、来期見通しはプラス9.1となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス27.3、来期見通しはプラス9.1となっている。

●販売、仕入価格共に下落が続いている。仕入価格は14期連続のマイナス水準となっている。

■サービス業■

サービス業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	▲ 7.2	17.1	43.9	39.0	▲ 21.9	19.5	65.9	14.6	4.9
売上	▲ 9.6	26.8	26.8	46.3	▲ 19.5	39.0	43.9	17.1	21.9
収益	▲ 14.2	19.5	34.1	46.3	▲ 26.8	36.6	43.9	19.5	17.1

●サービス業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比14.7ポイント下落し、マイナス21.9となった。来期(2018年7月～9月)見通しはプラス4.9となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス19.5、来期見通しはプラス21.9となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス26.8、来期見通しはプラス17.1となっている。

●旅館業からは、食材費、人件費、燃料費の上昇が三重苦となって収益を圧迫しているとの声があった。バス運送業者からは、県内同業者と連携してバス旅行を企画したとの声があった。

サービス業のうち: 医療福祉業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	9.1	10.0	40.0	50.0	▲ 40.0	10.0	80.0	10.0	0.0
売上	0.0	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	40.0	50.0	10.0	30.0
収益	▲ 18.2	10.0	50.0	40.0	▲ 30.0	40.0	50.0	10.0	30.0

●医療福祉業の業況判断DIは、今期(2018年4月～6月)は前期比49.1ポイントと大幅に下落し、マイナス40.0となった。来期(2018年7月～9月)見通しはゼロとなっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス20.0、来期見通しはプラス30.0となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス30.0、来期見通しはプラス30.0となっている。

●人手不足が深刻化しており、雇用判断DIは過去最低のマイナス90.0ポイントとなっている。介護施設からは人手不足対策として外国人の採用を増やして行きたいとの声が聞かれた。

■ 昨年同期比較売上高・収益 ■

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	41.8	32.9	25.3	16.5
建設業	42.9	35.7	21.4	21.5
卸売業	31.6	42.1	26.3	5.3
小売業	33.3	35.4	31.3	2.0
不動産業	27.3	54.5	18.2	9.1
サービス業	24.4	43.9	31.7	▲ 7.3
総計	35.8	37.5	26.7	9.1

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	39.2	36.7	24.1	15.1
建設業	38.1	45.2	16.7	21.4
卸売業	21.1	47.4	31.6	▲ 10.5
小売業	25.0	43.8	31.3	▲ 6.3
不動産業	27.3	54.5	18.2	9.1
サービス業	22.0	43.9	34.1	▲ 12.1
総計	31.3	42.5	26.3	5.0

業種別	増加	変わらず	減少	DI
卸売業	21.1	78.9	0.0	21.1
小売業	16.7	77.1	6.3	10.4
総計	17.9	77.6	4.5	13.4

- ① 昨年同期(2017年4月～6月)比較売上高DIは、全業種ではプラス9.1となった。
 ② 昨年同期比較収益DIは、卸売業、小売業、サービス業でマイナスとなったが、全業種ではプラス5.0となった。
 ③ 昨年同期比較販売価格DIは、卸売業プラス21.1、小売業プラス10.4となった。

■ 販売価格 ■

販売価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	17.3	16.5	81.0	2.5	14.0	12.7	86.1	1.3	11.4
建設業	2.2	4.8	81.0	14.3	▲ 9.5	4.8	92.9	2.4	2.4
卸売業	20.8	15.8	84.2	0.0	15.8	5.3	94.7	0.0	5.3
小売業	8.2	22.9	66.7	10.4	12.5	10.4	85.4	4.2	6.2
不動産業	▲ 9.1	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1	0.0	100.0	0.0	0.0
サービス業	2.3	19.5	75.6	4.9	14.6	9.8	90.2	0.0	9.8
総計	9.5	15.8	77.1	7.1	8.7	9.2	89.2	1.7	7.5

● 今期の販売価格DIは、全業種でプラス8.7となった。来期見通しは、全業種でプラス7.5となっている。卸売業では、3期連続で販売価格が「下降」と回答する企業はなかった。また、来期見通しでは、卸売業、不動産業、サービス業で「下降」と回答する企業はなかった。

■ 仕入価格 ■

仕入価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	34.6	44.3	55.7	0.0	44.3	26.6	72.2	1.3	25.3
建設業	20.0	21.4	76.2	2.4	19.0	11.9	88.1	0.0	11.9
卸売業	16.7	15.8	84.2	0.0	15.8	10.5	89.5	0.0	10.5
小売業	14.2	33.3	58.3	8.3	25.0	18.8	79.2	2.1	16.7
不動産業	▲ 18.2	0.0	72.7	27.3	▲ 27.3	0.0	100.0	0.0	0.0
サービス業	16.6	31.7	65.9	2.4	29.3	24.4	75.6	0.0	24.4
総計	21.0	31.7	64.6	3.8	27.9	19.6	79.6	0.8	18.8

● 今期の仕入価格DIは、全業種でプラス27.9となり、3期連続で20ポイントを上回る水準となった。金属製品製造業がプラス69.2(2期連続過去最高水準)、金属製品製造業除く製造業がプラス46.5と大幅に上昇している。来期見通しは、全業種でプラス18.8となっている。

■在庫■

在庫DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI	過剰傾向	適正
製造業	▲ 3.7	8.9	78.5	12.7	▲ 3.8	6.3	86.1	7.6	▲ 1.3
建設業	▲ 2.2	2.4	97.6	0.0	2.4	0.0	100.0	0.0	0.0
卸売業	8.3	10.5	89.5	0.0	10.5	5.3	94.7	0.0	5.3
小売業	4.0	18.8	79.2	2.1	16.7	6.3	93.8	0.0	6.3
不動産業	▲ 54.5	0.0	45.5	54.5	▲ 54.5	0.0	63.6	36.4	▲ 36.4
総計	▲ 2.9	9.5	81.9	8.5	1.0	4.5	90.5	5.0	▲ 0.5

●在庫DIは、今期は全業種で8割超が適正と回答し、全業種でプラス1.0となった。来期見通しは、全業種で9割超が適正と回答し、全業種でマイナス0.5となっている。

●不動産業では、購入希望地域の土地物件が引き続き不足しており、過去最低を記録した前期と変わらず、2期連続でマイナス54.5となり、来期見通しもマイナス36.4となっている。

■受注残■

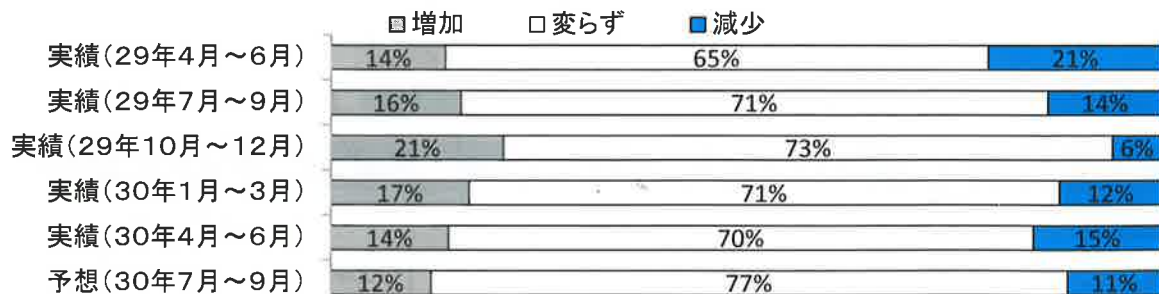
受注残DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	増加	変わらず	減少	DI	増加	変わらず
製造業	2.5	27.8	60.8	11.4	16.4	27.8	60.8	11.4	16.4
建設業	11.1	33.3	47.6	19.0	14.3	28.6	59.5	11.9	16.7
総計	5.6	29.8	56.2	14.0	15.8	28.1	60.3	11.6	16.5

●製造業の受注残DIは、今期は前期比13.9ポイント上昇し、プラス16.4となった。来期見通しも、プラス16.4となっている。

●建設業の受注残DIは、今期は前期比3.2ポイント上昇し、プラス14.3となった。来期見通しは、プラス16.7となっている。

■雇用面の動き■

前期比残業時間



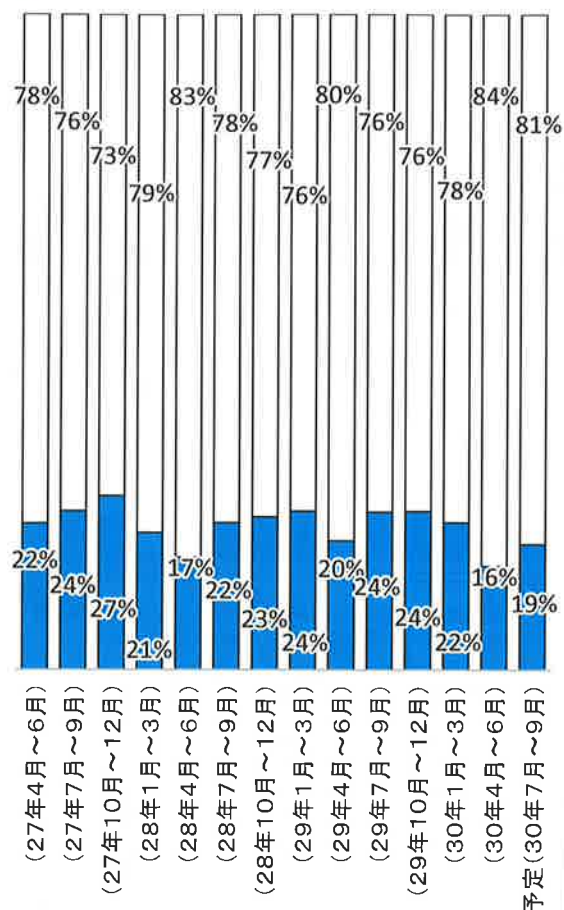
人手実績と予想



借入金の動き・難易度

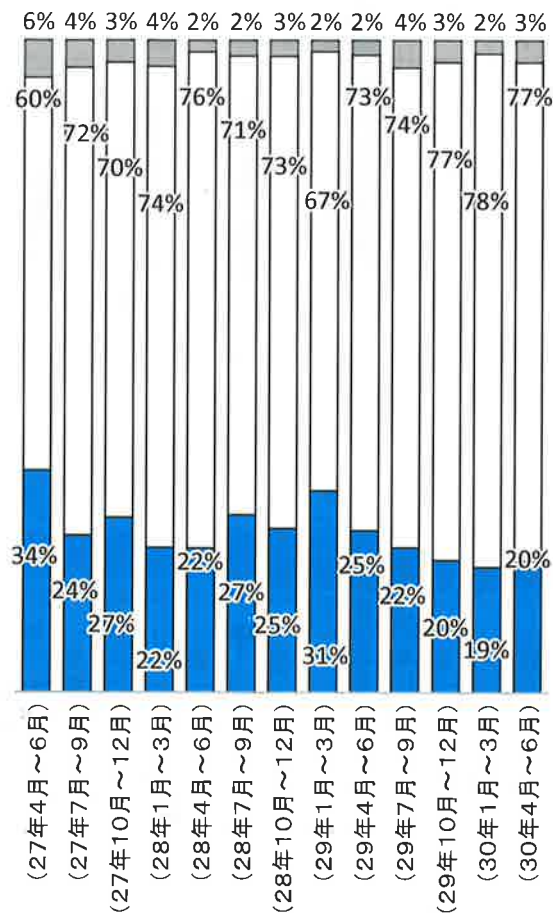
借入金の動き

■ 借入した(予定あり) □ 借入しない(予定なし)



民間金融機関からの借入金難易度

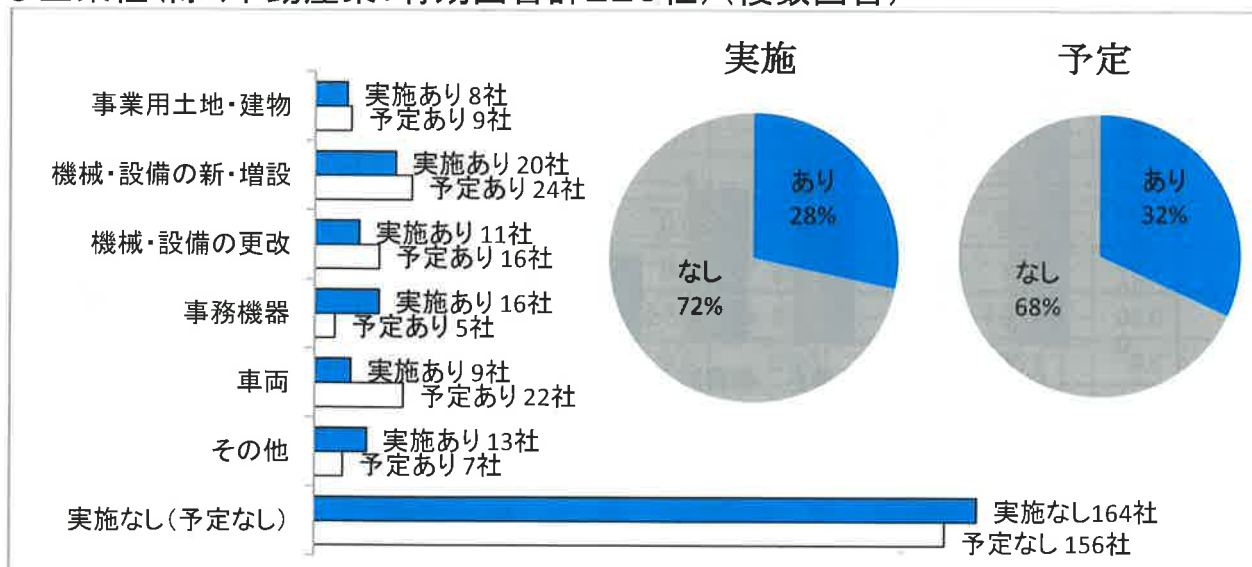
■ 容易 □ 変わらない □ 難しい



● 2016年1月にマイナス金利政策が導入されたが、借入をした企業の割合は、今期(30年4月～6月)16%と依然として低い水準となっている。また、借入の難易度は、『容易』と回答した企業の割合が前期比1%上昇し、20%となり、『難しい』は前期比1%上昇し、3%となっている。

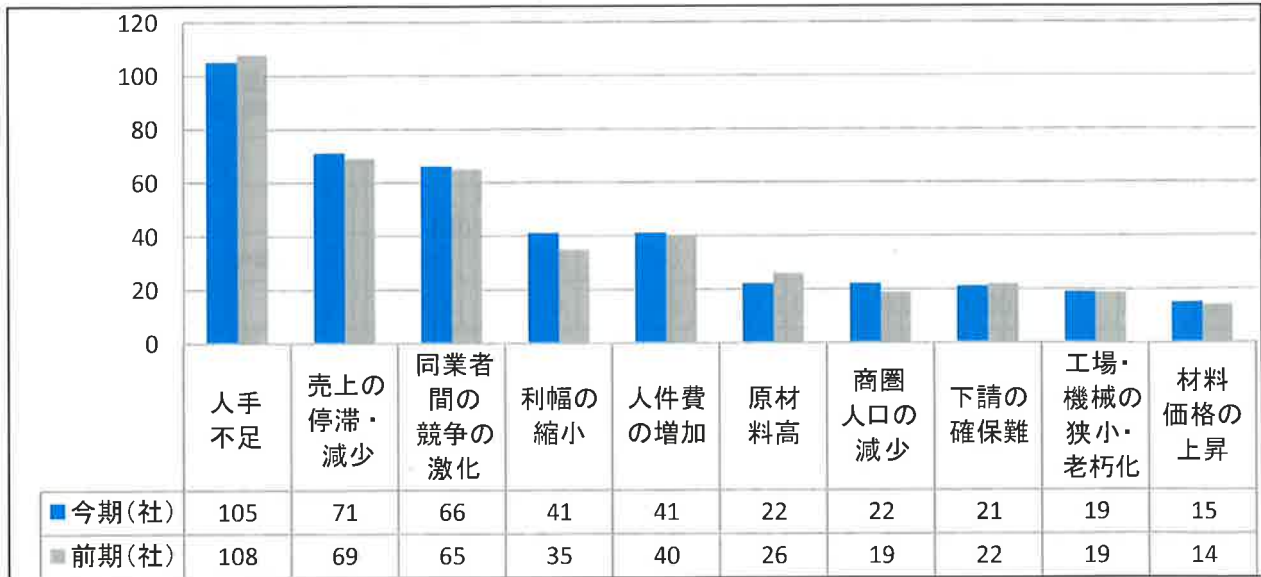
設備投資の実施(30年4月～6月)と予定(30年7月～9月)

● 全業種(除く不動産業:有効回答計229社)(複数回答)



■経営上の問題点■

●全業種(複数回答)

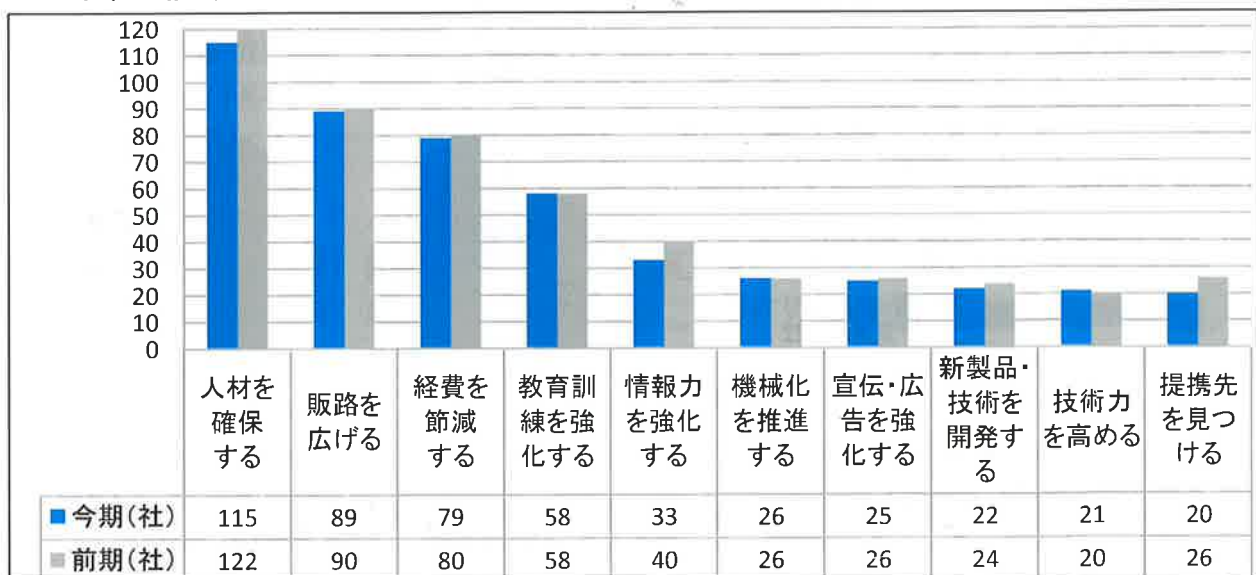


●業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	人手不足	19.9	人手不足	20.2	同業者間の競争の激化	15.6	人手不足	17.1	商品物件の不足	24.0	人手不足	24.0
2位	原材料高	12.2	同業者間の競争の激化	13.8	利幅の縮小	15.6	同業者間の競争の激化	16.2	同業者間の競争の激化	20.0	売上の停滞・減少	18.3
3位	工場・機械の狭小・老朽化	10.5	下請の確保難	10.6	売上の停滞・減少	11.1	売上の停滞・減少	14.5	利幅の縮小	20.0	同業者間の競争の激化	13.5
4位	売上の停滞・減少	9.9	売上の停滞・減少	8.5	仕入先からの値上げ要請	11.1	商圏人口の減少	13.7	売上の停滞・減少	16.0	人件費の増加	9.6
5位	生産能力の不足	6.6	利幅の縮小	8.5	人手不足	8.9	利幅の縮小	9.4	大手企業との競争の激化	12.0	材料価格の上昇	6.7

■当面の重点経営施策■

●全業種(複数回答)



●業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	人材を確保する	19.6	人材を確保する	21.6	販路を広げる	20.0	人材を確保する	16.9	情報力を強化する	26.9	人材を確保する	20.5
2位	販路を広げる	18.6	販路を広げる	19.8	人材を確保する	17.8	経費を節減する	15.3	不動産の有効活用を図る	19.2	販路を広げる	17.0
3位	新製品・技術を開発する	11.1	技術力を高める	18.9	経費を節減する	11.1	教育訓練を強化する	12.7	宣伝・広告を強化する	15.4	教育訓練を強化する	15.2
4位	経費を節減する	10.1	経費を節減する	18.0	情報力を強化する	11.1	品揃えを改善する	11.9	販路を広げる	7.7	経費を節減する	13.4
5位	機械化を推進する	9.0	情報力を強化する	8.1	提携先を見つける	8.9	宣伝・広告を強化する	11.0	新しい事業を始める	7.7	技術力を強化する	8.0

■調査員の調査コメントから■

○今期の業況判断D Iは、プラス4.1と、前回調査時の業況判断D I見通しのプラス18.2、前期業況判断D Iのプラス12.7を大幅に下回ったが、前年同期(プラス5.9)とほぼ同水準となっている。(4~6月期の平均はプラス4.3)

○前回調査時の業況判断D I見通し対比では、「良い」見通しが34.5に対し、実績は30.4となり、4.1ポイント減少している。一方、「悪い」見通しが16.3に対し、実績は26.3となり、10.0ポイント増加している。業種別には、建設業と卸売業の業況判断D Iは、前回調査時の見通し対比では上昇しているが、その他業種では下降しており、小売業、不動産業、サービス業ではマイナスとなり、見通しD Iと大きくかい離している。

○今期の業況感の悪化は、前期に引き続き深刻な人手不足の継続、原油価格上昇による原材料費や経費(燃料費や運賃など)の上昇が要因となっている。

○雇用判断D Iは、マイナス43.3と3期連続でマイナス40を超えており、深刻な人手不足、人財不足は継続している。業種別には、サービス業マイナス58.5、建設業マイナス47.6、製造業マイナス45.6、小売業マイナス39.6、不動産業マイナス27.3、卸売業マイナス10.5となっている。

○国会で働き方改革、人づくり改革などが議論されているが、人手不足の影響の深刻化を補う対策として、製造現場では生産効率を高める機械導入、事務では飛躍的な効率化が期待できるRPA(業務自動化)の導入、さらには社員の能力を向上させる人材教育を強化しているなどの声が聞かれた。

○仕入価格判断D Iはプラス27.9となり、9期連続でプラス水準で直近3期は20ポイントを超えている。また、販売価格判断D Iはプラス8.7となり、4期連続でプラス水準となっている。
※最終ページの仕入価格判断D Iと販売価格判断D Iの推移グラフをご参照ください。

■調査要領■

1. 調査対象

当金庫営業エリア内の中小企業

2. 調査時期

2018年5月23日~6月7日

3. 調査方法

当金庫職員による訪問聞き取り調査

4. 分析方法

D Iを中心に分析

5. 季節変動について

■調査対象■

地区別	企業数	比率	従業員規模別	企業数	比率
津山鏡野地域	145	60.4%	1~4人	45	18.8%
真庭地域	52	21.7%	5~9人	56	23.3%
美作勝央地域	43	17.9%	10~19人	54	22.5%
総計	240	100.0%	20~29人	29	12.1%
業種別	企業数	比率	30~39人	19	7.9%
製造業	79	32.9%	40~49人	12	5.0%
建設業	42	17.5%	50~99人	11	4.6%
卸売業	19	7.9%	100~199人	10	4.2%
小売業	48	20.0%	200~300人	4	1.7%
不動産業	11	4.6%	総計	240	100.0%
サービス業	41	17.1%			
総計	240	100.0%			

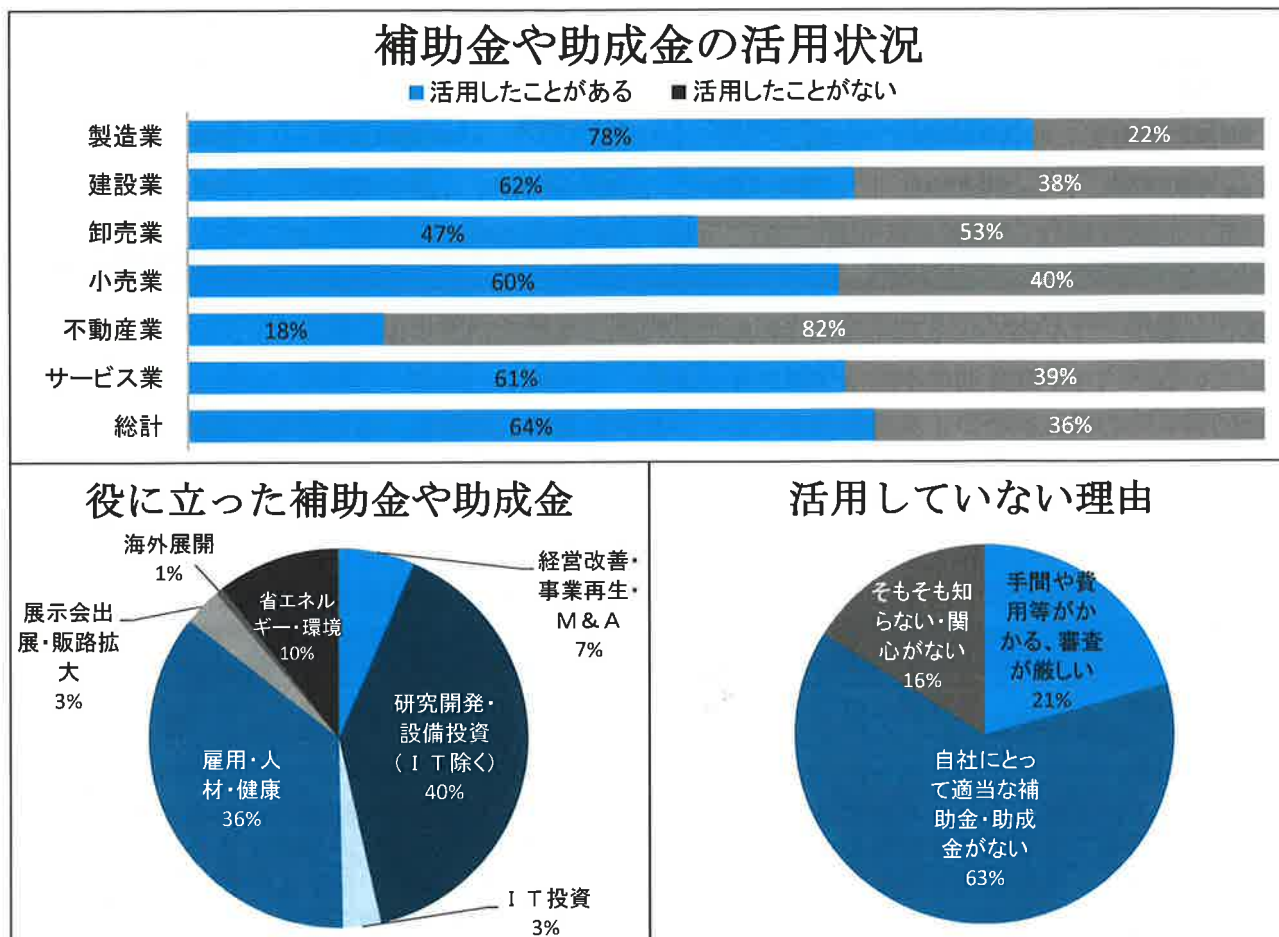
業況判断D Iは、毎年1~3月期に低下し、4~6月期に上昇するという季節的な変動(季節変動)がありますが、当金庫の分析においては季節変動の調整(季節調整)は行っておりません。

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。

また、掲載資料は正確性・安全性を保証するものではありません。

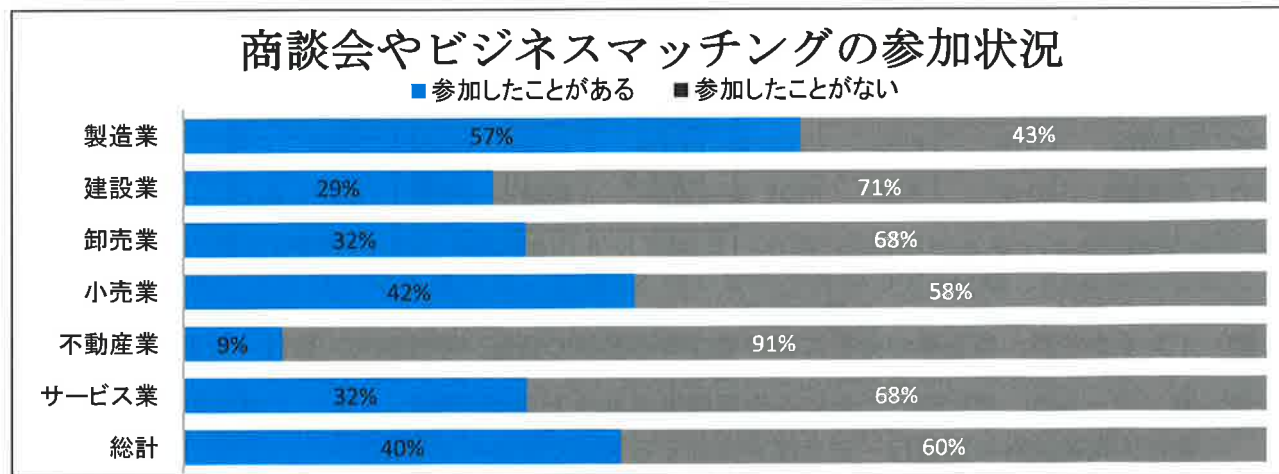
☆☆☆特別調査☆☆☆
特別調査-「中小企業経営に関する各種支援制度の利用について」

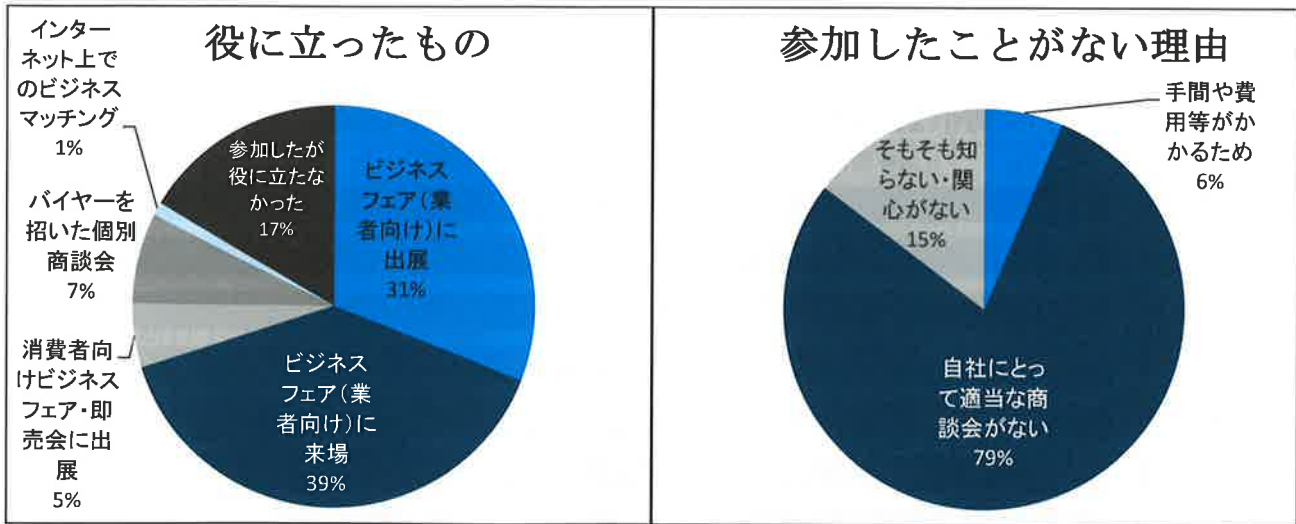
問1. 国や都道府県等では、中小企業支援に係る補助金や助成金制度が用意されています。それらの中で貴社が特に役に立ったとお考えのものはございますか。また、いままでに活用したことがない場合、その理由をお答えください。



- 「補助金や助成金を活用したことがある」企業の割合は64%であり、業種別には、製造業が78%、建設業が62%、サービス業が61%の順となっている。一方で、「活用したことがない」企業の割合は36%となっている。
- 活用した補助金や助成金としては、「研究開発・設備投資 (IT除く)」が40%と最も多くなっている。次いで「雇用・人材・健康」が36%と続いている。
- 補助金や助成金を活用したことがない理由としては、「自社にとって適当な補助金・助成金がない」が63%と最も多くなっている。

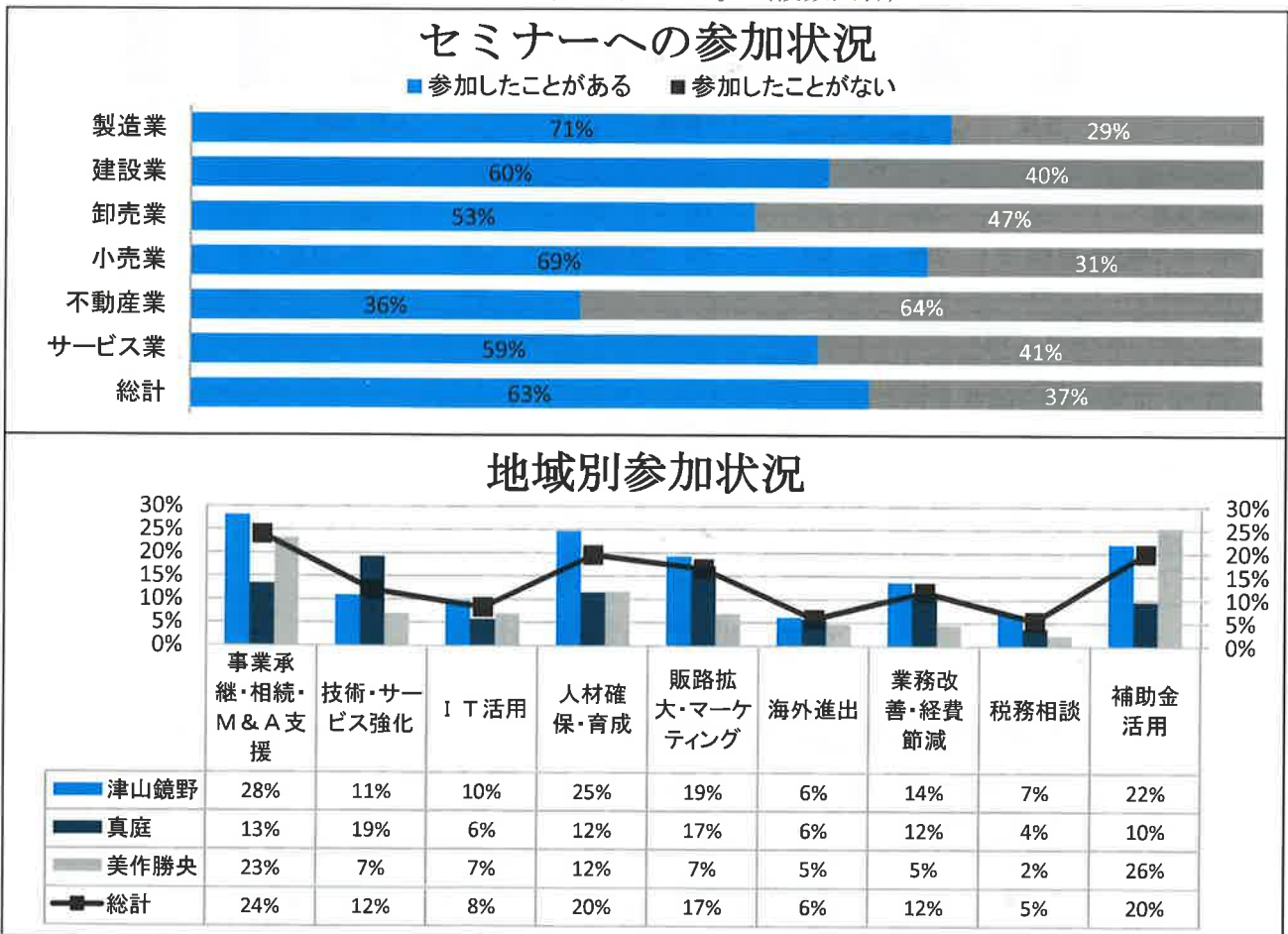
問2. 貴社では、これまで参加した公的機関や金融機関等が主催する商談会やビジネスフェアのなかで、役に立ったとお考えのものはありますか。また、参加したことがない場合は、その理由をお答えください。





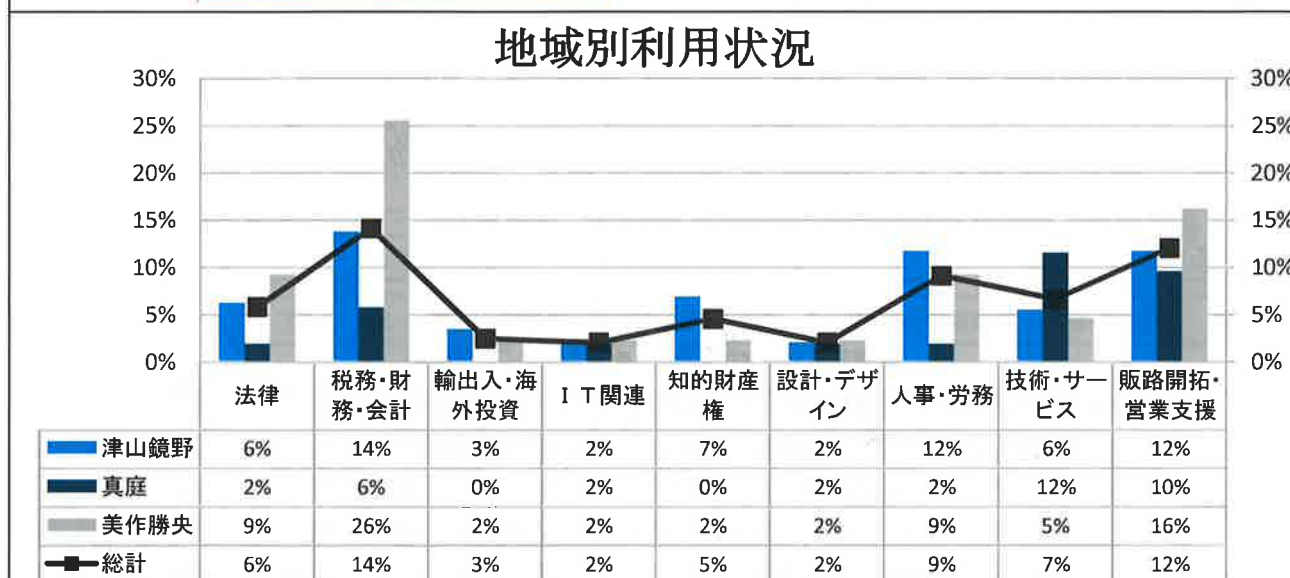
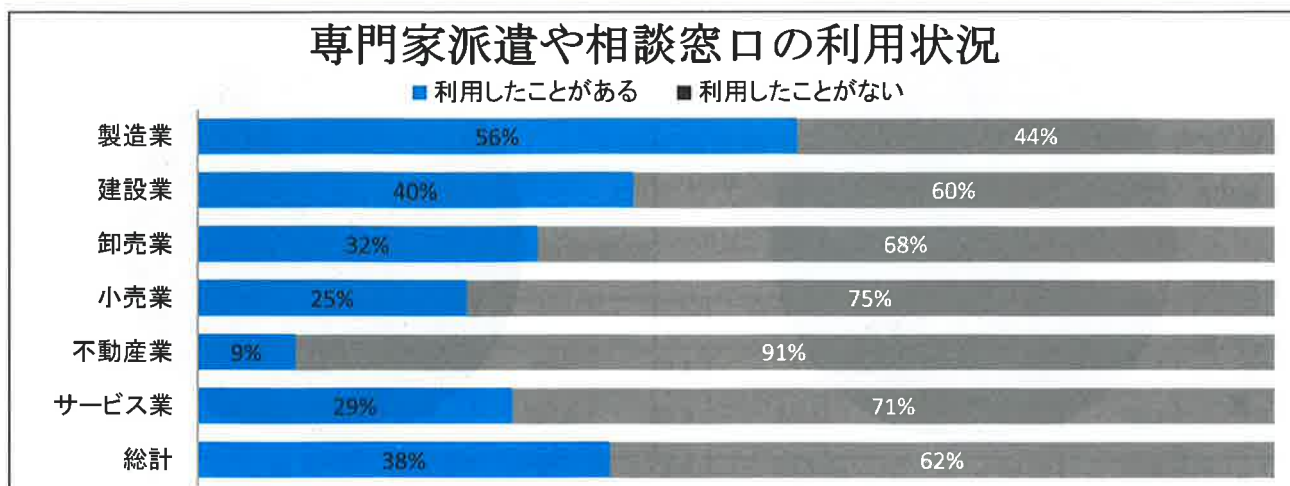
- 「商談会やビジネスフェアに参加したことがある」企業の割合は40%であり、業種別には、製造業が57%、小売業が42%、卸売業とサービス業が32%の順となっている。一方で、「参加したことがない」企業の割合は60%となっている。
- 役に立ったものとしては、「ビジネスフェア(業者向け)に来場」が39%と最も多くなっている。次いで「ビジネスフェア(業者向け)に出展」が31%と続いている。
- 参加したことがない理由としては、「自社にとって適当な商談会がない」が79%と最も多くなっている。

問3. 貴社では、これまで公的機関が主催するセミナーに参加したことがありますか。参加したことがある場合、特に役に立ったテーマをお答えください。(複数回答)



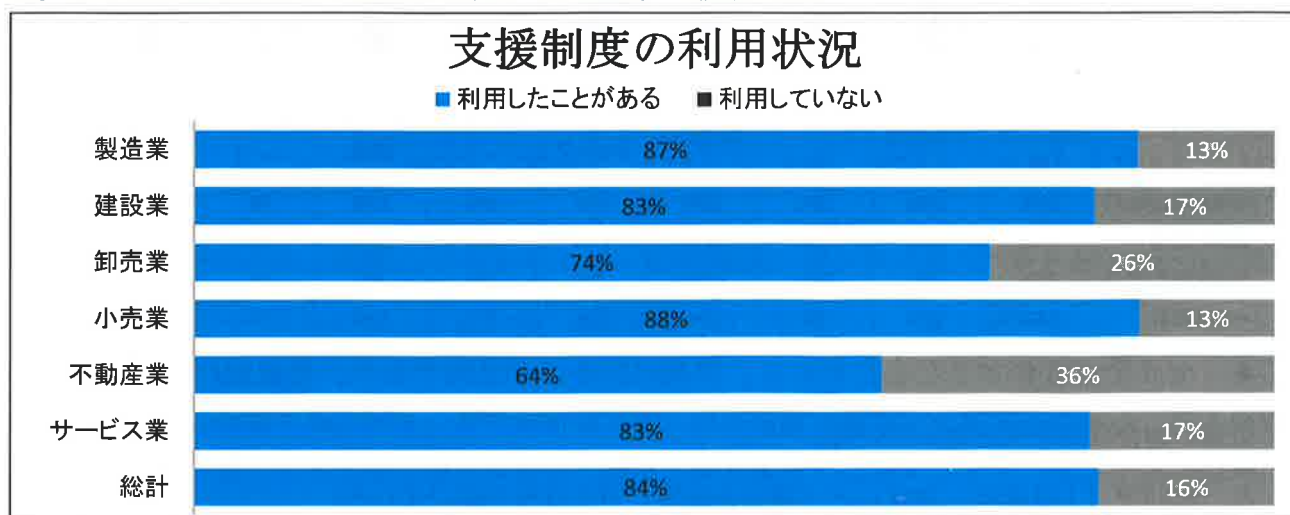
- 「セミナーに参加したことがある」企業の割合は63%であり、業種別には、製造業が71%、小売業が69%、建設業が60%の順になっている。一方で、「参加したことがない」企業の割合は37%となっている。
- 役に立ったテーマとしては、「事業承継・相続・M&A支援」が24%と最も多くなっている。次いで「人材確保・育成」と「補助金活用」が20%と続いている。
- 地域別には、津山鏡野地域で参加割合が高くなっている。

問4. 貴社では、公的機関や金融機関が行っている専門家派遣や相談窓口を利用したことはありますか。利用したことがある場合、特に役に立った分野についてお答えください。（複数回答）

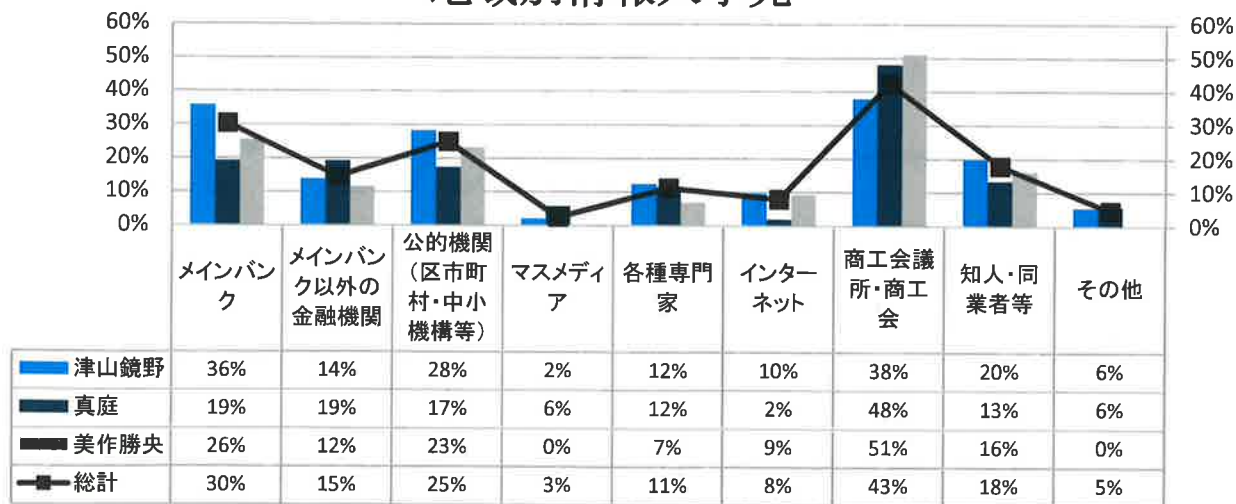


- 「専門家派遣や相談窓口を利用したことがある」企業の割合は38%であり、業種別には、製造業が56%、建設業が40%、卸売業が32%の順となっている。一方で、「利用したことがない」企業の割合は62%となっている。
- 役に立った分野としては、「税務・財務・会計」が14%と最も多くなっている。次いで「販路開拓・営業支援」が12%と続いている。
- 地域別には、美作勝央地域で利用割合が高くなっている。

問5. 問1～4のような支援制度を利用するにあたり、それらの情報を主にどこから入手しましたか。当てはまるものを3つ以内でお答えください。（複数回答）



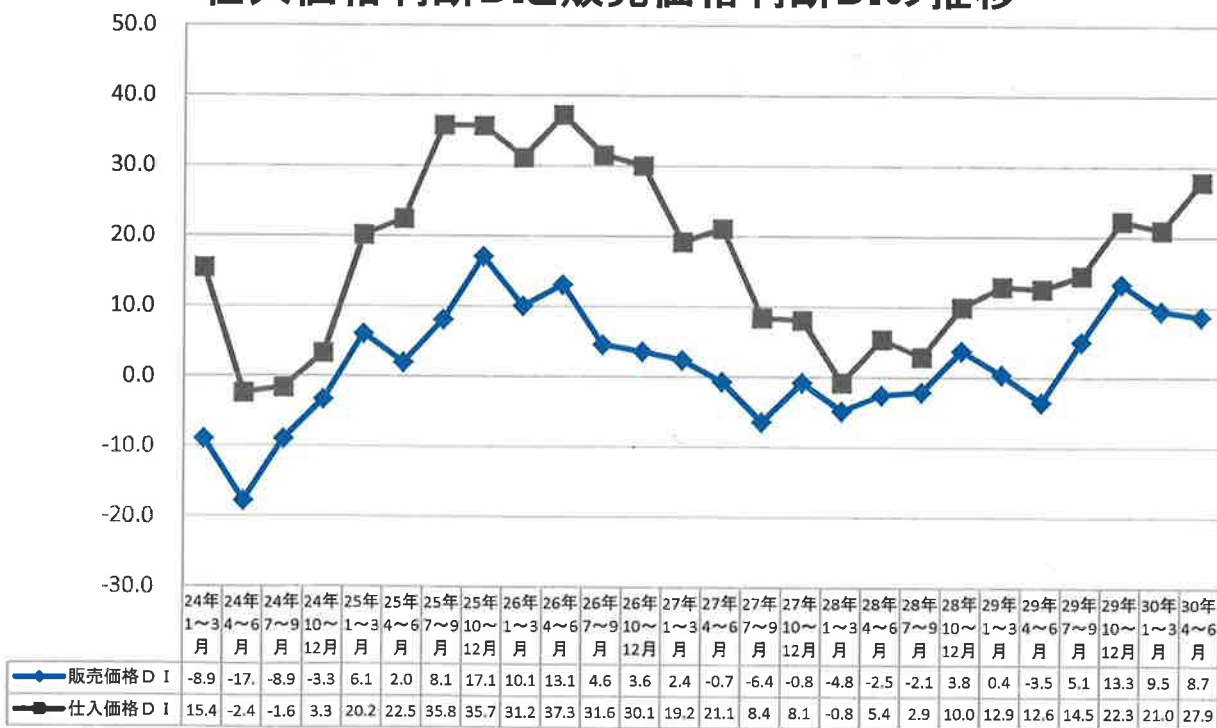
地域別情報入手先



- 「支援制度を利用したことがある」企業の割合は84%であり、業種別には、小売業が88%、製造業が87%、サービス業と建設業が83%の順となっている。一方で、「利用したことがない」企業の割合が16%となっている。
- 情報の入手先としては、「商工会議所・商工会」が43%と最も多くなっている。次いで「メインバンク」が30%、公的機関が25%と続いている。
- 全ての地域で、「商工会議所・商工会」が情報の入手先として最も多くなっている。

(参考) 仕入価格判断DIと販売価格判断DIの推移

仕入価格判断DIと販売価格判断DIの推移



○仕入価格判断DIはプラス27.9となり、9期連続でプラス水準で直近3期は20ポイントを超えている。業種別には、製造業とサービス業が平均を上回っている。製造業は平成26年10~12月期以来40ポイントを超えプラス44.3となり、「下降」と回答のあった企業はゼロとなった。また、サービス業は平成26年4~6月期のプラス48.4に次ぐプラス29.3と過去2番目の水準となっている。

○販売価格判断DIはプラス8.7となり、4期連続でプラス水準となっている。業種別には、卸売業プラス15.8、サービス業プラス14.6、製造業プラス14.0、小売業プラス12.5とプラス水準となっているが、建設業と不動産業はマイナス水準となっている。卸売業では、4期連続で「下降」と回答のあった企業はゼロとなり、15ポイントを超えて推移している。

作州地域の活性化応援信用金庫



岡山県津山市山下30-15
0868-22-4121
地域創生部
(担当：杉山、岡部)